



戸田 英作さん（猟師）



天職かもしれないですね

シカやイノシシをわなで捕獲し、カワウを猟銃で仕留める。それで生計を立てる日が来るとは思わなかった。

戸田英作さんは、約2年前から専門の猟師として暮らす。「山がごちそうで、川も空もごちそう。いや、天職かもしれないですね。ほんとに」。自宅がある中神ノ川地区の周辺にわなを30か所仕掛け、数日に1回のペースで見回る。夏から冬は、四万十川のアユを食べるカワウを撃つ。

シカは1頭当たり1万7千円、イノシシは1万3千円、カワウは1羽当たり5千円。食害をもたらす鳥獣の捕獲報奨金が主な生活資金だ。シカとイノシシは食材としてもいただく。

「捕ったら地元の人が喜んでくれるんですよ。『いつもありがとう』って。農林漁業で生きている人にとって、作物やアユを食われた時のショックはすごく大きい。だから、誰かがやらないかん仕事だなと」。

3～5人ほどで行う鳥撃ちが特に好きだという。群れを追い立てる役と、待ち伏せて撃つ役に分かれての猟。飛び去るカワウを散弾銃で狙うと、轟音と共に獲物が落ちる。

「みんなでやるチームプレー。それが楽しい。外したら『次

はこうしよう』みたいに話し合ってる」。

仁井田地区で生まれ育った戸田さん。20歳ごろから東京で働き、22歳からの1年間はワーキングホリデー先のニュージーランドで過ごした。だが、どこにもやりたいことはなかった。父が経営する町内の老人ホームで働きつつ、今から10年前の25歳で狩猟免許を取る。趣味のつもりだったという。

窪川猟友会の「師匠」たちに猟のいろはを学び、その面白さにはまった。数年後には、同年代の狩猟仲間と一緒に、高知県猟友会の青年部を立ち上げる。高知市などには「猟に行きたくても猟場が分からず行けない」という若手の狩猟者が多く、彼らを受け入れる活動を進めている。

「今、猟師の新しいコミュニティがどんどん広がってます。猟師に希望はあるはずで、絶対。僕がそのモデルケースにならないと」。

自宅は、熱心な林業家だった祖父の土地に立つ。田畑を柵で囲いながら「シカとイノシシがおらんかったらどればあんなことか」と汗をぬぐっていた姿を思い出す。



町にはこんな waza も
ちょい waza!! カマキリが大好き! 佐竹凜さん(写真後列中央) 北ノ川小学校6年

カマキリが大好きで、飼育中は容器に入れて学校に通うほど。「目とか鎌の部分が好き」。クラスメートも放課後に餌のパックを探して協力。夏はカマキリが成長する季節だ。新しい出会いを楽しみにしている。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。ちょいwaza!!は随時募集中!▶





四万十の魅力

学校ホームページが新しくなりました。
<https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/shimanto-h>
noteも始めました。公式インスタグラムと合わせて、ぜひフォローしてください!!



4月のおもな学校行事紹介

対面式・部活動紹介

対面式で1年生と2・3年生が交流した後、各部が活動内容や魅力を紹介しました。1年生が真剣に話を聞いてくれました。

スポーツテスト

握力や上体おこしなど7種目をテストしました。得意な種目でも苦手な種目でも、みんな良い結果が出るよう頑張りました。

新入生仲間づくり研修

生徒会が企画したレクを行いました。最初は緊張感がありましたが、少しずつほぐれ、1年生同士の仲を深めることができました。

遠足

ビーチフラッグや借り物リレーなどの全学年でのチーム対抗レクや各クラスでのレクを行い、生徒同士の仲を深めることができました。



じゅうく。

#地域で挑戦する、高校生たち



「じゅうく。」では、定期テスト対策も実施しています。スタッフに質問したり、友達同士で教え合ったり、1人で黙々と進めたり。生徒それぞれの目的に合わせた環境を用意しています。2学期以降も実施予定です。ご利用を検討される方は、お気軽にお問い合わせください!